北関東

ビジュアル重視の農業誌

メディアクロス水戸

創刊号はレンコン特集

印刷・広告・出版事業を手掛けるメディアクロス水戸（水戸市）は写真をふんだんに使いビジュアルを重視するなどした新タイプの農業雑誌「ONE'sLIFE AGRICULTURE（ワンズライフ・アグリカルチャー）」（価格550円）を12月に創刊した。

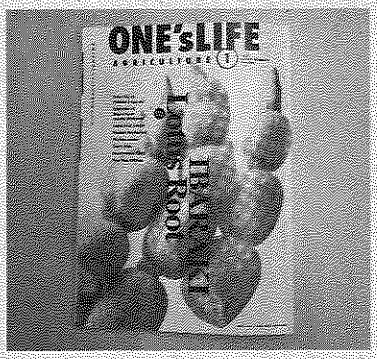
写真をふんだんに使い、創刊号ではレンコンを特集した

創刊号は茨城県が都道府県で産出額トップのレンコンを特集。今後もネギを取り上げるなど3カ月に1回程度のペースで発行していく方針だ。

メディアクロス水戸は長年、制作・発行に関わってきた無料配布のタウン誌「月刊ぷらっと・ぷらざ」を9月号を最後に休刊。地元・茨城の地域振興に結びつく新雑誌の発行に向けて準備を進めてきた。レンコンを特集した「ワンズライフ・アグリカルチャー①」は第1弾で県内の書店などで扱ってもらう。

ワンズライフの編集コンセプトの柱は「茨城のレンコン生産品から人の生きざまが見えてくる」。レンコン特集では読む人に生産者の姿を通じ改めて茨城の代表的な産品に関心を持ってもらおうという内容にした。

B5版全42ページの表紙は英文表記を打ち出した外国雑誌風とし、生産者5人のロングインタビューを目玉の記事とした。レンコン料理のレシピや東京にあるレンコン料理専門店の紹介といった実用的な情報も盛り込んだ。



表紙は英文表記を主体として外国雑誌風のしゃれたデザインとした

「農業産出額が全国3位の農業王国、茨城県では農業のあり方が地域の動向に大きく影響する。茨城に根ざす当社が新たにどんな雑誌をつくるべきか熟慮した結果、幅広い、これまでは主役になりにくかった農産物を取り上げていきたい」というのはワンズライフ編集責任者でメディアクロス水戸プロデューサーの土橋裕社長は創刊の経緯を説明する。

デジタル媒体ではなく、あえて上質紙を使い写真のクオリティーにこだわる紙の雑誌を創刊したのも理由がある。「手元に残る紙の媒体には販促のパンフレットやチラシのような特有の浸透力があり、地域振興に果たす役割は依然大きい」。高橋社長の答えには出版だけでなく印刷、広告事業も手掛ける経営トップならではの視点もある。

「メロンやイチゴと違い、これまでは主役になりにくかった農産物を取り上げていきたい」というのはワンズライフ編集責任者でメディアクロス水戸プロデューサーの土屋和子さん。

次号はネギの特集を予定する。有機栽培に挑戦する新規就農者のほか、水戸で栽培される「柔甘（やわらか）ねぎ」の生産者の話題などを盛り込むという。茨城県の農業に今後どう光を当てていくかが期待される。（岩崎樹生）